口頭発表Ａ⑩

養護教諭および歯科衛生士養成における多職種連携教育の試み

奥田紀久子　日野出大輔　吉岡昌美　宮崎久美子　梶原京子
（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部）

１．はじめに

本学歯学部では，平成 19 年度に口腔保健学科が設置され，歯科衛生士並びに社会福祉士の養成が開始された。また，医学部保健学科看護学専攻では，養護教諭一種免許取得のための教育課程が認可され，平成 20 年度入学生から，選択による養成が始まっている。歯科衛生士は，厚生労働大臣の免許によって，歯科診療の補助や歯科保健指導を業とする医療専門職であり，養護教諭は養護教諭免許を持ち，学校教育法の規定により，児童・生徒の養護をつかさどる目的で小・中・高等学校に配置される教育職員である。

両者に共通して重要性の高い職務内容に，子どもを対象とした歯科保健指導があげられる。特に，小学校における健康教育は，健康，安全で幸福な生活のために必要な習慣を養い，心身の調和的発達を図ること[1)]が目標の一つとして掲げられており，さらに，その方法においては外部からの専門家を招いてのゲストティーチャー（ＧＴ）や担任教諭を含む複数の教諭によるティームティーチング（ＴＴ）[2)]の導入が推奨されている。学校における健康教育の一環として，養護教諭と歯科衛生士が協働して歯科保健指導を推進する意義は高く，学生時代に多職種との連携とその成果を体験することは，将来の専門職としての活動への一助になると考え，合同授業を企画した。

平成 21 年度より 2 年間の継続した実践の成果を検証し，今後の改善への示唆を得たので報告する。

２．方法

１）期間

平成 21 年度及び平成 22 年度の 12 月から 1 月に合同授業を実施した。各年度 60 分×4 回の授業時間を確保した。

２）対象

各年度ともに，歯学部口腔保健学科及び医学部保健学科看護学専攻学生 2 年生（養護教諭一種免許取得のための必修科目「養護概説Ⅱ」を履修している者）を対象とした。

３）合同授業の展開

1 時間目；合同授業のテーマは「“生きる力”をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」とし，「学校における歯科保健指導の位置づけ」及び「小学生を対象とした歯科保健指導のポイント」についての一斉講義の後，合同授業の進め方についてのオリエンテーションとグループ編成を行った。グループ編成は 1 グループ 5～6 名とし，歯学部口腔保健学科と医学部保健学科の学生が均等に配置できるようにあらかじめ指定した。

2 時間目；指導案の作成及び模擬授業に向けての教材作成と準備についてのグループワークを行った。指導案の立案に先だって，使用可能な教具・教材を提示した。また，平成 22 年度は 1 時間目と 2 時間目の間に，冬休みを含んで約 1 カ月間の準備期間を確保した。

3・4 時間目；模擬授業の発表と相互評価および教員による講評とアンケートを実施した。相互評価は，学生一人ひとりがすべてのグループの授業を評価できるように評価用紙を配布した。評価項目は「導入」「目標」「内容」「発問」「対応」「教材・教具」「時間」「態度・姿勢」「評価」「コメント」とした。模擬授業の時間は 1 グループ 15 分以内とした。

４）評価方法

グループワーク中の学生の様子の観察と，合同授業についての事後アンケートを分析対象とした。アンケートの質問項目は，①所属，②参加内容，③「“生きる力”をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」というテーマから抱く合同授業のイメージ，④合同授業によるイメージの変化，⑤将来どのような専門職になりたいか，⑥合同授業に参加していちばん印象に残ったこと，の 6 項目とした。①と②は選択肢，その他は自由記述とした。

３．結果

計 4 回の合同授業にはほぼすべての学生が参加することができ，67 名から事後アンケートを回収することができた。

１）テーマ「“生きる力”をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」に対するイメージの変化

合同授業を通じて，テーマに関するイメージが変化した内容を，カテゴリ分類したものを表１に示す。

表1．「“生きる力”をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」に関するイメージの変化

カテゴリ	小カテゴリ
子どもへの保健指導の意義や方向性，工夫に関する変化	対象の発達段階に応じた保健指導の必要性 保健指導の際の工夫の重要性 子ども自身が主体的に考えることができるような指導の大切さ 歯・口の健康についての早期学習が子どもの生涯に及ぼす影響 よい磨き方を習慣として継続するような動機づけの必要性
歯・口の健康が全身の健康や生活習慣に強く関連することへの気づき	歯・口の健康は歯磨きや食生活を含んだ生活習慣そのもの 歯・口の健康は身体全体の健康にとっても重要であることの再確認 歯・口の健康の重要性の根拠を知ることの大切さ 歯磨きの大切さの再確認 歯・口に関する興味や関心の喚起

学生が自由記述した内容は，「子どもへの保健指導の意義や方向性，工夫に関する変化」と「歯・口の健康が生活習慣に強く関連することへの気づき」の２カテゴリに分類することができた。

２）合同授業に対する学生の学び

合同授業に参加していちばん印象に残ったことに関する回答のカテゴリ分類を表２に示した。

「連携の意義と重要性」と「授業実践のための工夫と労力の大切さ」および「新たな視点への気づき」の３カテゴリに分類することができた。

３）教員によるグループワークの観察内容

授業終了後，参加した教員間で意見交換を行った。平成 21 年度は，模擬授業の直前に準備の時間を確保できなかったことから，準備不足の印象を受けた。改善策として平成 22 年度は 1 時間目と 2 時間目の間に冬休みを挟み，時間外のグループワークが可能となるよう配慮した。さらに模擬授業の前週に 1 時間，グループワークのための時間を確保したことで，模擬授業の準備のための時間が十分だったと推測できる。

表2．合同授業でいちばん印象に残ったことのカテゴリ分類一覧

カテゴリ	小カテゴリ
連携の意義と重要性	グループワークにおける専門性をいかした意見交換 専門知識の共有と学び 他職種や教員同士の連携の大切さと楽しさ 協働による相互理解の深まり 情報共有の重要性
授業実践のための工夫と労力の大切さ	授業のための準備の細かさ 授業展開のアイデアと多様性 準備のための時間調整の難しさと時間不足 模擬授業の実践の緊張とすばらしさ メリハリのある授業展開の大切さ 児童の意見や質問への対応の重要性
新たな視点への気づき	他の学生についての新たな発見 他職種の視点への気づき

また，グループワーク中適宜助言を行ったが，グループワークが活発に進められているグループと，そうでないグループがあった。模擬授業では，養護教諭と歯科衛生士のＴＴを取り入れているグループと，養護教諭のみで展開するグループがあり，グループ間の学習活動の差がみられた。

４．考察

学生は合同授業に参加することで，多職種が連携することの重要性や情報を共有することの大切さを学んでいた。看護学専攻の学生は口腔保健に関する知識を，口腔保健学科の学生は学校における健康教育や授業の位置づけ，指導案の立案等をそれぞれ双方の学科の学生から学び，お互いの専門性について情報交換することができていた。また，今まで見えてなかった新たな視点で歯・口の健康について考えることや協働して授業に取り組むことの困難や楽しさに気付くことができていた。これらの学びや気づきは学生が自分自身の課題としてとらえると共に，将来指導者となるにあたっての心構えを構築することにもつながっていた。

しかし，限られた時間の中で十分な教育の成果を得るためには課題も多く，時間の確保，効果的なグループワークへの助言等，今後合同授業を継続しながら改善を重ねる必要性が示唆された。

５．文献

１）市川須美子他編集：教育小六法，学陽書房，東京，2007

２）文部科学省：「生きる力」をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり，社団法人日本学校歯科医師会，東京，2008